

(様式)

常任委員会行政視察報告書

委員会名	経済建設常任委員会	委員名	能登谷 繁
視察地	出雲市		
調査事項	出雲農業未来の懸け橋事業及び新出雲農業チャレンジ事業について		
視察年月日	2025年11月19日		
視察内容	<p><u>出雲農業未来の懸け橋事業及び新出雲農業チャレンジ事業について</u> 能登谷 繁</p> <p>●2025年11月19日 出雲市視察 人口17万2千人 議員定数30人。 農林水産部農業振興課に対応していただいた。 出雲市は多様な農産物を生産する島根県内一の農業地帯。農業産出額は米穀類が35%、園芸類が44%、畜産が21%となっている。</p> <p><u>1、出雲農業未来の懸け橋事業について</u> 出雲市総合振興計画「出雲新話2030」における農業分野の基本計画では、そば、ブドウ、柿は高温、霜の害で根が死ぬ、気候変動で被害出ている。そのためブロッコリー、いちじく、神在ねぎ、西浜いもなどを、「出雲農業未来の懸け橋事業」として支援事業を行っている。事務は市が行っている。トラクターの購入は、国は新規のみだが、出雲市は更新も認めている。</p> <p>●財源について聞いた。補助金交付額を見ると、R6年度は1億5千8百万円ほどの補助金交付額であり、市は8千万円、JAが8千万円を出して運用しているとのこと。そのうち国や県などからの財源はあるのか聞いた。 ⇒市の8千万円のうち85%がふるさと納税を財源にしているとの回答だった。</p> <p>●農業分野では近年、物価高騰の影響が大きいと思うが、肥料・ハウスなどの資材、人件費もあると思うが、物価高騰対策メニューはあるのか聞いた。 ⇒懸け橋メニューにはないが、今年度除草機械の支援メニューとして50万円を上限に2分の1を補助する事業があるとの回答だった。</p> <p><u>2、新出雲農業チャレンジ事業について</u> 新出雲農業チャレンジ事業として、「モデル的・先駆的取組の支援」、「中山間地域農業の支援」、「担い手の支援」を柱として事業を実施している。特にスマート農業の推進が著しく、補助額が多くなっている。</p> <p>①R5年度までに取り組んだ実証試験の結果を踏まえ、補助対象機械・設備を拡充 ②環境にやさしい農業の推進 ・環境にやさしい農業の普及に関する調査・研究活動への支援 ・環境にやさしい農業に資する機械・設備の導入を支援 ③中山間地域農業の振興 ・粗放的農地利用などの農村環境の保全・活性化に係る調査・研究活動への支援 ・中山間地域における除草作業の省力化に資する補助対象技術の拡充 ④労働力確保の推進 ・農繁期の労働力確保に向けた調査・研究活動への支援 ・農福連携の取り組みを支援</p> <p>●中山間地の指定と財源について聞いた 中山間地域農業支援について、中山間地域の指定は国と県があると思うが、何ヶ所受け</p>		

(様式)

ているか、財源はどれくらい来ているか聞いた。

⇒細かく78ヶ所もあるとの回答で驚いた。交付額は1億1千1百万円だった。

●農業用水について聞いた

⇒25%転作の条件で水が来ているが、足りないのが実情。畑は単独で行っていない、水田の空いている時期に野菜を作る。2年3作を行っているとの事。

◎農業振興区制度があり、農業専門の区長、区長補助もいる。

◎農業公社による農地集積

地図システムを活用した農地集積の推進、農業公社標準賃借料、評価点など基準を定めている。出雲市とJAが1,050万円ずつ出し合って2,100万円の事業。

●気候変動と品種改良について聞いた

北海道では稲の品種改良で寒冷地に強い品種を作ってきたが、近年では高温対策が必要になってきている。品種改良も気候変動に対応しなければならないのではないかと。

⇒省力化のための直播技術も登場している。それらの品種改良事業は県などで行っている。高温耐性、多収を目指している。

3、視察の成果等について

出雲市の視察によって得た成果等は、以下のものである。

- ①農地集積について、市が関与する農業公社により、農地を面的にまとめながら、農地の価値を平準化し保っていることは参考になった。
- ②合併した斐川町地域では、農林事務局があり、農業振興区制度を定め、農業専門の区長、区長補助も置いている。農村の維持発展のために、行政との懸け橋の上でも大事な役割を果たしていると感じた。
- ③出雲市とJAが共同出資によって課題解決のための事業を行っていることは、旭川市でも取り組むべき課題だと考える。
- ④気候変動や担い手不足にも対応して、直播技術の進行が必要になるのではないかと課題意識が持てた。旭川市は、出雲市と違い乾田直播ではなく、水田直播の研究が始まっているが、今後直播技術の進行が必要になるのではないかと考える。

(様式)

常任委員会行政視察報告書

委員会名	経済建設常任委員会	委員名	能登谷 繁
視察地	鳥取市		
調査事項	鳥取市民体育館エネトピアアリーナについて		
視察年月日	2025年11月20日		
視察内容	<p style="text-align: center;"><u>鳥取市民体育館エネトピアアリーナについて</u></p> <p style="text-align: right;">能登谷 繁</p> <p>◆2025年11月20日鳥取市視察。人口18万8千人、議員定数32人。</p> <p>◎鳥取市民体育館はH22年度に耐震性が低いことが判明。耐震補強を含む大規模改修の検討を開始した。</p> <p>H28年度にサウンディング型市場調査を行い、地元事業者からも参加意向があった。行政が資金調達するDBO方式のデメリットもあり、PFI(BTO)方式に決定した。鳥取市で初めてのPFI事業となった。建設費は約49億円、解体費や金利含む、R5年6月にリニューアルオープンした。</p> <p><u>1、鳥取市民体育館再整備事業について</u></p> <p>●資金調達について聞いた。</p> <p>市が資金調達した場合の従来方式と、民間がした場合では、金利が大きく違うと思うが建設費総額はどのように比較されたのか。</p> <p>⇒事業手法、PFI(BTO)は施設運営を委託できる、コストの削減ができるメリットがあるとの事。</p> <p>●事業費の内訳を聞いた。SPCの事業費は年間1億3千万円、市がSPC(特別目的会社)に8900万円支出しているが、残りはどうか。</p> <p>⇒市の8900万円は、建設費の支払に費消されているとの事。残りの4100万円は利用料収入と運営事業者の自主事業収入となっている。</p> <p>●公共の関与について聞いた</p> <p>市は民間の管理や指導をしながら、公共サービスの質を維持することになると思うが、市民ニーズにはどのように対応しているのか。</p> <p>⇒準備の早い段階から市と民間との打ち合わせを行ってきた。</p> <p>管理運営はミズノが行っている。毎月モニタリングを行い市民ニーズに対応している。</p> <p>●県庁所在地であり、県とのすみ分けについて。</p> <p>県立体育館があるので、市は「するスポーツ」中心であり、市民がスポーツに親しむことが中心である。予備の観戦席は300席であり、それ以上必要な場合は主催者が席を用意している。</p> <p><u>2、視察の成果等について</u></p> <p>鳥取市の視察によって得た成果等は、以下のものである。</p> <p>①PFI方式を選定する場合、建設に関わる十分な比較検討と、それらを反映した要求水準書の精度が重要であると認識した。</p> <p>②維持管理や運営については、市の関与をしっかりと担保し、市民ニーズを反映できる仕組みにする必要があると認識した。</p> <p>③鳥取市の場合は大型観客席はなく、市民がスポーツに親しむことが中心であり、本来の</p>		

(様式)

体育館の役割を十分に発揮できていると感じた。

④15年契約になっているが、16年目以降がどのようになるかは不明であり、課題があると感じた。

(様式)

常任委員会行政視察報告書

委員会名	経済建設常任委員会	委員名	能登谷 繁
視察地	高槻市		
調査事項	高安満遺跡公園について		
視察年月日	2025年11月21日		
視察内容	<p style="text-align: center;"><u>安満遺跡公園について</u></p> <p style="text-align: right;">能登谷 繁</p> <p>◆2025年11月21日高槻市視察。人口35万人、議員定数34人。</p> <p><u>1、安満遺跡公園について</u></p> <p>◎高槻市の特色あるまちづくり 高槻市は南北に長い地形、大阪と京都の間にあり「関西中心都市」と称している。 高槻城 キリシタン大名で有名な高山右近で有名。高槻城下を再生プロジェクト 今城塚 前方後円墳 日本で唯一発掘可能 摂津峡公園 桜の名所 芥川城 戦国武将三好長慶の居城 将棋の街 藤井聡太が所属する関西将棋会館が移転してきた。高槻将棋まつりを開催。</p> <p>◎安満遺跡公園を、国が史跡に指定した理由は、弥生時代の環濠集落跡を含む集落遺跡であり、居住域、生産域、墓域の3つの要素で構成されており、弥生時代の「クニ」の変遷過程を明らかにすることができる、極めて重要な大規模遺跡であるとの事。 市街地からのアクセスが良く、阪急京都線、JR 京都線の駅から徒歩圏内にある。 公園面積は、甲子園球場5個分、イベント年間400回 京都大学の農場であったところを、市が頼んで遺跡を残すために移転してもらった経過。 市民のワークショップで公園の使い方を決めた。公園を市民とともに育て続ける事をコンセプトにし、2017年度からは「安満人倶楽部（あまんどくらぶ）」が発足し、市民主体の様々な活動を行っている。</p> <p>◎公園機能全体としては、史跡指定地、公園区域、防災事業、雨水貯留施設、子ども未来館、都市計画道路からなっている。</p> <p>◎指定管理者制度「安満遺跡公園パートナーズ」 構成員は、西武造園（公園管理）、ワールドインテック（イベント企画運営）、地域環境計画（市民協働）となっている。 運営費は、市が約8000万円、全体事業費は2億2千万円 年間400のイベント、高槻将棋まつり、ランタンイベント、バブルボール、ハンドメイドフェスなどを企画。</p> <p>◎安満人倶楽部の活動 現在110名の会員が、各テーマに分かれて活動。 プレーパーク、ペット譲渡会、マルシェ、泥んこ遊びなどを企画している。</p>		

(様式)

●財源について聞いた。

公園全体の整備費約220億円だが、国などの財源はどのような内訳か。

⇒約220億円のうち、国費が約50%入っている。

50%約110億円の内訳は、史跡整備に対する文化庁補助金が7割、防災公園街区整備事業に対しUR都市機構からは3割の補助となっている。

2、視察の成果等について

高槻市の視察によって得た成果等は、以下のものである。

- ①市民合意について、「歴史に嘘はない、住民の反対はなかった」との事。テーマが街の歴史であり、市民参加で公園の活用を検討してきたことが重要である。
- ②整備後も、公園を市のシンボルと位置づけ、市民とともに育て続ける事をコンセプトにし、安満人倶楽部が発足したことなど、市民とともに歩んでいることは重要である。
- ③財源は、国の補助金が50%活用できたことは大きい利点となっている。事業の計画段階から財政・財源の分析が重要であると認識した。